

令和5年度 朝来市立大蔵小学校 学校評価

学校教育目標

夢や志をもって、自立して
未来を担う大蔵っ子の育成

総合的な学校関係者評価

- ・自立した子どもたちを育成する一人ひとりを大切にしたい学校づくりができています。
- ・学校だより、学校運営協議会活動等を通じて、学校の情報を広く発信、公開に努め、地域とともにある学校づくりの実現について努めている。
- ・安心安全な教育環境づくりに努めている。
- ・「自ら学び、自ら考える児童の育成」を目指すことを中心に据えた学習活動が展開できている。
- ・体験活動を中心とした学びの充実が図られている。
- ・地域の区、自治協議会等との協力した学校づくりができています。

自己評価 達成状況 (A: 達成している B: 概ね達成している C: あまり達成していない D: 達成していない)

評価の観点		達成状況	学校の取組状況・今後改善すべきこと	自己評価の妥当性 (評価項目ごとの学校関係者評価・意見等)	
学校運営	地域とともにある学校づくり	家庭や地域の人々への情報発信	A ○学校だよりを地域に全戸配布し、学校の様子を発信できた。 ●学校だよりでは、時機を逃し伝えきれない部分をホームページのさらなる活用や工夫で補う必要がある。	・学校だより等を通じて、学校の情報を広く発信、公開に努め、地域とともにある学校づくりの実現について努めている。 ・保護者アンケートでは「学校は子どもたちの教育について家庭との連携を図っている。」について他の項目と比べ、高い評価が得られていない。 ・ホームページの活用やデータ等での情報の発信に取り組む必要がある。	
		学校運営協議会活動の充実	A ○体験学習を積極的に推進していただいている。 ○読み聞かせも定期的に行っていた。図書室の整理もしていただき良い環境が維持されている。 ○舎外環境、舎内環境とも整えていただいた。落ち着いた環境で児童は学ぶことができています。	・学校運営協議会の活動を通じて、学校の情報を広く発信、公開に努め、地域とともにある学校づくりの実現について努めている。 ・読み聞かせの効果は認められるが、高学年になると、読書離れが見られる。	
	生徒指導	豊かな集団生活が営まれる学級づくり	A ○担任を中心に日々細やかに対応できている。		
		児童生徒の内面理解を図る指導の工夫	B ○職員間で児童についての共通理解ができた。 ○児童支援教員が配置されており、トラブル等についても未然防止や早期対応・早期解決ができています。		
		いじめ、不登校、問題行動、ネットトラブル等への適切な対応	A ○組織として未然防止、早期発見に努めており、素早い対応や職員間での情報共有もできている。 ○生活指導委員会が定期的に開催されており、課題について重点的な取組が行われている。 ○生活アンケートを毎月実施し、休み時間等も児童の様子を見ることでいじめの積極的認知を行うことができた。 ●ネットトラブルについて、事前の学習をもう少し充実できたらより効果が上がると考えられる。	・学校として丁寧な指導ができています。 ・「いじめ」はいつでもどこでも起こりうるという観点から今後も生活指導委員会を定期的に開催し、日々の児童の状況に対応できる体制づくりに努めることを継続してほしい。 ・ネットトラブルについて、今後も未然防止の取組が必要と考えられる。 ・不登校児童生徒の増加がニュースになっているが、コロナ禍以降、欠席することへの抵抗感が下がった状況があるのではないかと。 ・現在、青少年の犯罪でいたずらにしては度が過ぎる行為がある。各家庭での教育が大前提であるが、学校の中でも指導が必要ではないかと。	
	危機管理体制の整備	マニュアルの点検・見直し	B ●本年度も急な雷雨や警報発令など緊急時に引き渡しを行っており、絶えずマニュアルを改善し職員間でさらなる共通理解が必要と感じた。 ●能登半島地震の状況などを鑑み、不測の事態に備え、現状で良いと思わず、今後も点検・見直しをしていかなければならない。	・さらに様々な災害や犯罪、事故等から子どもを守る指導を大切にしてほしい。	
		地域課題に応じた防災、防犯教育の実施	B ○火災や地震を想定した避難訓練は確実に実施できた。 ●防犯教育や防犯訓練が十分できているとは言えないため、実施する必要がある。 ●従来通りのやり方に加えて、浸水や土砂災害に備えて垂直避難をする避難訓練、また、地震で傷病者が発生した想定での訓練等をする必要を感じる。	・危機管理面においても、スクールバスの導入は良いことであり、今後も安全な運行を考える必要がある。	
	特別支援教育	インクルーシブ教育の推進、校内の指導体制、個に応じた指導	B ○個に応じた指導体制ができており、可能な範囲で実践できている。 ●特別支援学級在籍児童の到達目標を、担任の先生としっかり話し合いながら日々の学習を進めていく必要がある。		
安全安心に通うことができる学校づくり	新型コロナウイルス感染症対策	A ○新型コロナウイルス感染症の5類移行をうけて、新たな対応を行うことができた。 ○換気などの感染症対策は継続できている。 ●「新型コロナウイルス感染症対策」の項目は削除（変更）しても良いと考える。	・先生方の対応が大変な状況である。		
あさごドリームアップ事業	特色ある学校づくり	A ○学校運営協議会や大蔵地域自治協議会の皆様の協力もあり、通常授業の中や教師対応では指導しにくい内容を学習させることができた。 ○特色ある学校づくりができています。 ●体験学習や行事の見直しや精選は常に行う必要がある。	・「じろはったん」等をいかした特色ある豊かな学校づくりができています。		
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業づくりのUD化推進	B ○研究授業では授業づくりのユニバーサルデザイン化ができています。 ○授業のUD化の継続は今後も行うべきであり、年度当初に研修を行うことができた。 ●日々の授業で「めあて」や「流れ」などユニバーサルデザイン化の基本について確実に取り組むことが必要である。		
	基礎・基本の定着と個に応じた学習指導の充実	指導内容・指導方法の工夫改善、評価方法の創意工夫	B ○ステップアップなどで、つまづきなど課題の多い児童について指導することができた。 ●ステップアップなど個別指導を行っているが、定着させるまでに至っていない部分がある。粘り強く指導していきたい。 ●校内授業研究において算数を行う学級が多い。様々な教科の研修を行うことで教員の指導力がさらに高まり、学力向上につながると思う。	・児童アンケートでは、「先生方の授業がよくわかる」に対して「そう思う」という回答が多いが、「授業は楽しい」の高学年の回答が低い値になっている。学習のつまづきがないだろうか。 ・保護者アンケートでは、授業に対してB評価にあたる「ややあてはまる」の評価が多い。学校と保護者とそれぞれの立場で受け止め方が違うのではないだろうか。	
	道徳教育	授業研究の充実と指導の工夫	B ○講師を招聘して研修を行うことができ、指導力向上につながった。 ●年間を通じて道徳科の研修を行うことができればさらに良いと思われる。		
	情報教育	情報活用能力の育成に向けた指導改善	B ○各児童のタブレットの活用はできている。 ●今後デジタル教科書の活用や研究を進めていく必要がある。	・タブレットの活用で作業効率等は向上するが、文章に関する能力や視力・筋力等の身体機能が低下しないか考慮する必要がある。	
課題教育	人権教育	人権尊重の精神の育成	A ○じろはったん集会や人権標語の発表など全校生で人権について考える時間を持つことができた。 ○児童が自ら考え、発信することができた。人権について自分事として捉えさせることができた。 ○地域の特色を生かした教材が活用できた。 ○折に触れ継続的に学校全体で人権教育ができた。	・思いやりの心を育む教育は、家庭、親の大きな役割である。 ・じろはったん集会等を生かした自尊感情や豊かな人権感覚を培う活動ができています。 ・じろはったん集会や歌物語を地域の方と人権について考える機会にしてはどうだろうか。	
	体験活動の充実	自然学校、トライやる・ウィーク等を含めた体験活動の充実	A ○地域の方の協力や環境を生かした体験活動に取り組むことができた。 ○事前準備を十分に行い、宿泊ありの自然学校を安全に実施することができ、体験活動が充実した。 ●自然学校では、様々な体験活動が計画され実施されていますが、地震・台風などの災害でライフラインが途絶えたときの手立てや技術（調理・防寒地）などを考え体験する場があっても良のではないかと。	・豊かな感性、個性を生かしていく多様な課題教育が展開できている。 ・自然学校における取組内容には、厳しさの視点が欠けているように感じる。災害時に果たして自分で行えることは何か、どうしたらよいのか等の対応を念頭に置いた取組も必要ではないかと。	
	食育の推進	栄養教諭と連携した食育の推進	A ○給食の時間を中心に、栄養教諭による食に関する授業を行い、子どもたちに考えさせることができた。 ○栄養教諭や給食センターと連携して着実に実施できている。		
	キャリア教育	進路選択能力の育成・社会的自立に必要な態度や能力の育成	B ○発達段階に応じて実施できている。 ●中学校でのキャリア教育と連携した取組を行う必要がある。		
その他	地域とともにある学校づくり	A ○地域の方々と様々な形で交流ができた。地域の方々とつながりができている。今後は地区内で日頃接する機会のない方々への情報発信もしていきたい。 ○給食を食べる会の取組で学校に来ていただき、授業の様子や子ども達の様子を見ていただくことができています。	・地域の人たちが学校に出向き、体験活動を通じて子どもたちとの交流が継続的にできている。 ・体験活動において、保護者の参加も期待できるような取組にしていきたい。 ・保護者のみならず、より地域の方に校内に来ていただき、児童の様子を見ていただければより良い。		